

福井大入学に嶺南卒

教育学部

出身教員不足で検討

福井県全体に占める嶺南の小中学校数や学級数の割合に対し慢性的に不足している嶺南出身の教諭を増やそうと、福井大が教育学部に嶺南地域卒の新設を検討していることが16日分かった。最短期間で現在の高校1年生らを対象とした2021年度入試での新設を目指している。

(小林真也)

福井市の福井大文京キャンパスで同日開かれた国立大の教員養成の方向性を考えるシンポジウムで、福井大の松木健一・連合教職開発研究科長と敦賀市教委の上野弘教育長が説明した。

学校数は過去5年間の平均で県全体の23%、学級数は20%だったのに対し、嶺南出身の教諭数は16%程度にとどまっております。嶺北出身の新採用教員が嶺南の学校に数年間勤務した後、嶺北に移る人事異動が定着している。嶺南は地域

の伝統行事が盛んな上、小規模校が多く、ふるさと教育を進める上で地域をよく知る嶺南出身教員の確保が長年の課題となっている。

嶺南2市4町の教育長が昨年12月、福井大に嶺南地域卒の新設を要請。定員100人の同大教育学部に入学する嶺南出身者は嶺北出身者に比べて圧倒的に少ないことから同大も新設に前向きで、最短期間で19年度中に予告し、2年後の21年度入試で新設できるように文科科学省と協議している。福井大の嶺南卒新設の動き

を受け、県教委も教員採用試験での嶺南卒新設の検討を始めた。シンポジウムに出席した片柳成彬・県教育政策課長が「教員の働き方改革も進め、教員を目指す高校生を増やしたい」と述べた。

敦賀市教委の上野教育長は、教員採用を目指す非常勤講師や職員の試験合格に向け嶺南6市町が元校長らを講師に毎週開いている勉強会「嶺南教師塾」の取り組みも紹介し「質の高い教育に向け嶺南6市町で協力して対応したい」と話した。